

「語彙と文法」共同研究プロジェクト研究会 2008 年度第 2 回

日時：2008 年 10 月 11 日（土）午後 1 時半～午後 5 時半

場所：AA 研マルチメディアセミナー室（306 室）

発表者：荒川慎太郎（AA 研）

発表題目：西夏語・チベット語仏教語彙集の構築に向けて

仏典の読解のための工具書のような、特定の用途を主目的とする西夏語語彙集、「西夏語・漢語対照語彙」（西田 1977）の「チベット語対照版」的な語彙集を作成中である。

西夏語仏典は漢語仏典、あるいはチベット語仏典からの重訳が主である。漢語仏典から訳された西夏語仏教語彙と、チベット語仏典から訳されたそれは、明瞭に異なる。例えば、同じ「舎衛国」に対して、漢語仏典から翻訳された西夏語は「舎・衛（音写）国」のような表現であるのに対して、チベット語仏典から翻訳されたそれは、逐語的には「聞く＋有る」のようになる（チベット語；*mnyan yod* 「舎衛国」、*nyan pa* 「聞く」、*yod* 「有る」）。

「西夏語・チベット語仏教語彙集」は、チベット語から訳された西夏語仏典の読解、西夏語語彙論の研究に有効なものとなる。

本語彙集は、西夏文『聖勝慧彼岸到功德寶集頌』（以下『集頌』）と、北京版西藏大蔵経の当該仏典（北京版西藏大蔵経 No. 735 『聖般若波羅蜜多輯攝偈』）との対照資料を基にする。『集頌』は毎行 11 文字という定型文のため、西夏語の文法要素（動詞接頭辞・格助詞など）の省略などもないとはいえない。しかし、まとまった分量が残り、毎行改行する体裁のため、チベット文との対照・比較が容易である。ロシア・東方文献研究所をはじめ、英国、中国、日本にも保存される。現在ロシア所蔵品の西夏文字フォントテキスト入力 completed し、チベット文との対照資料を作成中である。

語彙集作成の問題点として、まず、語彙の収集と掲載基準に関しては、「どのような語彙を収録するか？（助詞類などの文法語も見出しとしてあげるか）」「どこまでを 1 語とするか？」「例文も収録するか？」「同一資料中の同一仏教語彙の異訳もあれば収録するか？」などが、検討事項となる。

本資料は電子化、書籍化も考慮に入れて作成する予定であるが、想定される利用者のため、提示方法に関しては、「既存の西夏文字配列（李 1997 など）を踏襲するか？」「チベット語の出典も明記するか？」「書籍化した場合、チベット語、漢語索引も検討するか？」などを検討する必要がある。